

令和4年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 11	公益目的事業 17
主査名	高橋孝明 東京大学空間情報科学研究センター教授	
研究テーマ	国土の利用や整備に関する空間経済学分析	
研究の目的： 本研究は、国土の効率的な利用や整備を進める上で問題となるさまざまな課題を取り上げ、都市経済学や空間経済学の分析道具を用いて考察することを通じて、それらを正しく把握し、その解決策を考察することを目的とする。 令和4年度は、とくに、都市内の交通システムの整備が都市構造にどのような影響を及ぼすかという問題を研究した。輸送費（通勤費用や買物行動の交通費）が下落することを通じて都市が空間的によりコンパクトになることがあり得るのか、そしてあるとすればそれはどのようなときか、理論的に明らかにした。また、そうした輸送費の低下が中心市街地における経済活動の集積にどのような影響を与えるかを分析した。		
研究の経過（4月～3月）： 分析道具となる都市・地域経済学や新経済地理学の枠組みについて理解を深め、その応用可能性を探るため、当該分野の研究者を招き、研究会を開催した。令和4年度は、9回の研究会を開催し、11名の研究者の研究報告を行った。なお、新型コロナウイルス感染症の影響で、前半の7月までは、Zoomを用いたオンライン形式で行っている。研究会の報告者と報告論題については、付記に記した。		
研究の成果（自己評価含む）： 研究会では多様なテーマを議論することで、都市経済学および空間経済学の分析手法の応用可能性についてさまざまな知見を得た。それを活かして、輸送インフラストラクチャーの改良が都市構造に及ぼす影響の分析を行った。 主要な結論は、以下のようにまとめられる。財やサービスが差別化されていて、集積の経済がはたらく場合を考える。輸送インフラストラクチャーの改良の結果、都市住民の総可処分所得が増加すると、より多くの財のバラエティが生産されるようになり、それが集積の経済のはたらきを強める。しかし、安定な均衡において、このプラスの効果は限定的で、必ず都市は空間的に拡大する。つまり、インフラストラクチャー投資によって、都市をよりコンパクトにすることはできない。ただ、都市でより多くのバラエティが生産されるようになるため、中心市街地は活性化する。 詳細については、研究成果報告書で説明する。これらの成果は、英文の学術論文にまとめて、近い将来、公刊する予定である。		
今後の課題： 令和4年度は、集中して理論的な分析を行ったため、実証的な分析を行うことができなかった。当然のことながら、政策的含意を得るにあたっては、実証的な分析で理論の結果を検証することが必要である。これは今後の課題として残されている。		

令和4年度研究プロジェクト研究概要報告

付記

研究会の報告者と報告論題

4月15日

- ・川窪悦章 (London School of Economics)
Supply chain dynamics and resilience of the economy during a crisis

5月13日

- ・田淵隆俊 (中央大学)
都市における住み替えと余暇時間

6月17日

- ・曾道智 (東北大学)
The core-periphery model under additively separable preferences
- ・林正義 (東京大学)
Anticipation, last-minute rush, and center-periphery relations: An empirical analysis of municipal mergers in the Heisei territorial reform in Japan

7月15日

- ・山岸敦 (プリンストン大学)
Measuring discrimination in spatial equilibrium: 100 years of Japan's invisible race

10月14日

- ・高橋孝明 (東京大学)
Do transport infrastructure investments decentralize a city? A theoretical revisit to the Alonso-Mills-Muth city with scale economies

11月11日

- ・佐藤泰裕 (東京大学)
Property tax competition: A quantitative assessment

12月9日

- ・今井雄一 (Washington University in St. Louis)
Residential choice under uncertainty: Brownian motion in idiosyncratic taste for location

1月13日

- ・Martín Besfamille (Pontificia Universidad Católica de Chile)
Natural monopoly regulation with non-paying consumers
- ・森知也 (京都大学)
Origin of power laws and their spatial fractal structure for city-size distributions

2月24日

- ・吾郷貴紀 (専修大学)
An extended model of spatial competition